



明日から中央図書館にて

28.12.2
杉並区広報課

近藤富枝追悼展を開催

明日12月3日から、区立中央図書館では、今年7月に亡くなった近藤富枝さんの功績を紹介する追悼展を開催します。近藤さんは、NHKアナウンサーや作家・ルポライターとして、戦前戦後の激動の時代を生きてきました。杉並区とも縁が深く、区内に在住し区立郷土博物館の運営にも協力をいただいていたいました。追悼展は、1月14日までで入場は無料です。



近藤富枝さんが、平成28年7月24日、老衰のため93歳の生涯を閉じられました。近藤さんは、東京女子大学を卒業後、NHKアナウンサーを務め、終戦の玉音放送にも立ち会う経験を持ち、作家、随筆家として、服飾研究者として、多方面で才能を発揮されました。

近藤さんは区内荻窪に住まわれていたこともあり杉並区との関わりが深く、区立郷土博物館運営協議会委員として、17年間活動されてきました。郷土博物館は、満州の最後の皇帝である愛新覚羅溥儀（あいしんかくら・ふぎ）の実弟の愛新覚羅溥傑（あいしんかくら・ふけつ）に嫁いだ嵯峨浩（さが・ひろ）の祖父にあたる嵯峨公勝公爵邸があった場所に建設されています。平成2年に、郷土博物館では、愛新覚羅溥儀と浩にまつわる特別展を開催していますが、当時の婚礼衣装などの解説など、近藤さんの力添えが必要不可欠でした。

また、近藤さんが復活させた「王朝継ぎ紙」を紹介する企画展は、郷土博物館で2度開催されました。継ぎ紙は、平安時代に作られていた和紙工芸の一つで、さまざまな色や種類の紙を継ぎ合わせ、金銀の箔や文様を書き入れた美しいものです。平安時代の姫君が楽しんでいましたが、その後途絶えてしまいました。近藤さんは、その継ぎ紙を復活させ、多くの人に紹介する活動を続けてきました。さらに、中央図書館でも、平成12年度に「王朝の雅び心をいまに生きて」「わたしの女性史 明治・大正・昭和の女性をさぐる」「わたしの探訪—『源氏物語』と色の世界」の3回にわたり企画展示を行い、多くの来場者を呼びました。

こうした長年の生涯学習の推進に尽力された近藤富枝さんの足跡や功績などを紹介する追悼展となります。展示品は、「王朝継ぎ紙」「貝合わせ」の実物、書、色紙、自筆原稿や親交の深かった瀬戸内寂聴さんとの写真やパネル、書籍や絶筆となった雑誌など、およそ80点です。明日12月3日から1月14日までの開催で、期間中の12月15日と12月31日から1月5日は、中央図書館の休館日となっています。

[問い合わせ先] 教育委員会事務局中央図書館：03-3391-5768